東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2006年2月17日

酒と薬物

親愛なるムスリムの皆様。私たちの尊い教えイスラームは、人の健やかさに大きな価値を置いています。肉体的、精神的健康に害を与えるものを食べること、飲むこと、使用すること、いかなる方法であれ体内に取り入れることを厳しく禁止しているのです。

この件について、クルアーンは次のように述べています。「あなたがた信仰する者よ、誠に酒と賭矢、偶像と占い矢は、忌み嫌われる悪魔の業である。これを避けなさい。恐らくあなたがたは成功するであろう。悪魔の望むところは、酒と賭矢によってあなたがたの間に、敵意と憎悪を起こさせ、あなたがたがアッラーを念じ礼拝を捧げるのを妨げようとすることである。それでもあなたがたは慎しまないのか。」（食卓章第９０・９１節）預言者ムハンマドも、「酒を遠ざけなさい。なぜならそれは、全ての害悪の母であるからである。」とおっしゃられています。多くの悪事の発端に、アルコールを含む飲み物や薬物などが存在することを明らかにされておられるのです。だからムスリムは、あらゆる種類の酒や薬物を絶対に避けなければならず、このようなものを摂取することを薦めるような環境からも遠ざかっていなければなりません。

親愛なるムスリムの皆様。アルコールが肉体に害を与え、多くの病気の原因になること、依存症を起こすことは、医学的に確認された事実です。アルコールを含む飲み物は、精神のバランスを崩し、自分自身がコントロールできない状態に陥らせ、何をしているのか、何を話しているのか自覚できないという症状を起こします。だからアルコールは、親友であるはずの人々に間に争いが起こる要因ともなり、酔っ払ったことから起こるけんかは、殺傷事件などにも発展しうるものです。酔っ払って帰宅し、家族とどうでもいいようなことでけんかし、妻や子供たちに暴力を振るい、結果として家庭を崩壊させた者は、決して少なくありません。この観点から、イスラームの教えがアルコール飲料を禁じていることは、個人の健康と共に、家族や集団の安定のためにも、非常に重要なことなのです。

ムスリムの皆様。社会的な存在である人間が、周囲と調和して生きることは、精神、神経が健全に保たれることによって可能となります。精神を蝕む最大の敵である薬物は、人を家族、社会、そして周囲から引き離し、孤独、不快、そして無責任な生き方をもたらします。依存してしまった人を、ほとんど死者のような状態にしてしまうものです。

ムスリムの皆様。人が、自らの健康を、自らの手で、そうと知りつつ蝕んでしまうことは、なんとよいことでしょうか。「一度くらいは大丈夫」といって、酒、薬物、タバコのような有害物質の爪にかかってしまった人が、そこから抜け出すことは決して容易ではありません。だから、こういった有害なものからは遠ざかっていましょう。自分たち、そして家族、子供たちを放棄せず、将来の保障である子供たち、そして若者たちに対して模範となりましょう。現世でも、来世でも、やすらぎと幸福がただアッラーのご命令と薦められた事々に従うことによって可能となることを忘れないようにしましょう。